

アジア共通通貨単位の誕生に向けて
— バスケット構成通貨による民間為替リスクの低減 —

ちかひろ まさし こぐれ よしひろ
近廣 昌志・小暮 佳弘

2004.11



笹川平和財団

アジア共通通貨単位の誕生に向けて

—バスケット構成通貨による民間為替リスクの低減—

近廣 昌志 *・小暮 佳弘 **

要 旨

いま、アジアでは域内金融・通貨フレームワークの新たな方向性を模索しなければならない時期を迎えている。国際金融の分野における、もっとも重要な論点の一つは外国為替リスクの問題である。通貨バスケットであるSDR (Special Drawing Right) やECU (European Currency Unit) の経験を踏まえ、アジア太平洋地域における、通貨バスケット導入が果たす可能性について検討し、アジア共通通貨単位=ACU (Asian Currency Unit) の創設を提案する。EMS (European Monetary System) において民間ECUの発展が与えた影響を重視し、またACUの特性を外国為替リスクの低減効果に求めることによって、公的なレジームの外にあってもACU導入には望ましい効果があることを主張する。

本稿ではACUの構成ウェイトを①輸出額ベース、②GDP額ベース、③両者の組み合わせ、以上の3パターン用意し、またインドの経済状況に鑑み、80年代および90年代以降の2つのタームに分類し、計6パターンのシミュレーションを行う。外国為替リスクの低減効果の側面から、いずれの場合においてもACU導入が有効であることを示す。

IPE (国際政治経済) の観点からしても、米ドル抜きの議論は無益であることはいうまでもないが、通常、アジアのバスケット通貨の議論では、米ドル、ユーロおよび日本円の3通貨によって構成される合成通貨の議論が多い。しかし、本稿で提案するACUは、インドルピーを組み込んだ12カ国通貨で構成されており、ここに最大の特徴がある。

注：本稿執筆に際しては、笹川平和財団研究調査役のラウ・シン・イー、および浜松学院大学学長の近藤健彦両氏から貴重なご意見を賜った。記して御礼申し上げる次第である。なお、本研究はSPF (笹川平和財団) の支援によるものであるが、本稿の内容および見解は、SPFの公式見解ではなく、ありうる誤謬および残された不満足な点に対する責任は二人の筆者に属するものである。

* (ちかひろ・まさし) 中央大学大学院商学研究科 (chikahiro@asia-currency.com)

** (こぐれ・よしひろ) 中央大学大学院法学研究科 (kogure@asia-currency.com)

はじめに

「アジアは一つである。」この言葉を岡倉角造、通称天心が唱えたことが日本の近代におけるアジア主義の始まりであると言われている。ヨーロッパにある合理主義や理知主義を排して、アジア独自の感覚的な同一感とそのアイデンティティを実存として、「感じる」というものであった。しかしその後、近代日本は福沢諭吉の「脱亜論」に代表されるようにアジアから乖離して、ヨーロッパの文明を積極的に受け入れ、ヨーロッパに追いつこうと模索し、ついに近代国家が誕生することになった。

20 世紀最後にはユーロが登場し、唯一の基軸通貨であるドルが、ユーロにその地位を脅かされる可能性は否定できない。

ユーロはアメリカのドル一元化に対抗するヨーロッパの単一通貨として登場した。もともと、ヨーロッパの統一を理念として単一通貨が考案されたが、一方でアメリカの存在を意識することによって、ユーロが誕生し得たと言っても過言ではないだろう。

アジア太平洋域内の通貨問題、あるいは共通計算単位である A C U や、金融・通貨面における統合の実現において、もっとも重要なファクターのひとつはアメリカの動向である。アメリカのアジア太平洋地域における役割を考えると、アジアでの通貨問題からアメリカを外すことは決して適切ではない。アジア経済はアメリカ経済に支えられている。そしてアメリカ経済もアジア経済に支えられている。アジアとアメリカは相互依存関係にあるのである。

また、近年は F T A（自由貿易協定）の締結に向けた動きが注目を集めていると同時に今日、アジア太平洋地域では 1997 年のアジア通貨危機の経験や 1999 年のユーロの誕生を経て、新たな通貨・金融フレームワークの構築を求める動きが活発になっている。具体的には、アジア共通債券市場、アジア共通通貨構想などであるが、特に、共通通貨構想については、論者によって様々な定義で用いられ、その内容や提案・主張にコンセンサスが形成されているとはいいがたい。

そこで本稿では、独自の構成を持つアジア共通通貨単位である A C U（Asian Currency Unit）を提案し、その理念および理論を検討し、A C U が有する可能性を探ってみたい。

1 バスケット計算単位の特性について

1-1 SDRの展開とユーロの実現

IMF（国際通貨基金）のSDR¹は、1974年7月1日を境に質的に生まれ変わる事になった。SDRは1969年に創出されたのであるが、当初、1SDR＝純金 1/35 オンス（0.888671グラム）＝1米ドルと等価であると規定されていた。米国は金本位制であり、米国以外の主要国は金為替本位制であったので、少なくとも理論上は、金という価値に裏づけされた合成通貨単位であった²。しかし1971年の金－ドル交換停止によって、SDRは金とのリンクが実質的に消滅することになり、米ドルの下落に伴って必然的にSDRも下落したのである。このような経緯から、当初のSDRは、1974年7月より米国・西ドイツ・英国・フランス・日本・カナダ・イタリア・オランダ・ベルギー・スウェーデン・オーストラリア・デンマーク・ノルウェー・スペイン・オーストリア・南アフリカの16カ国通貨による、いわゆる標準バスケット方式によるSDRへと変質したのである。その後1981年には主要5カ国通貨、そして1999年にはユーロ発足に伴って4カ国通貨で構成される通貨バスケットになるのである。現在でもSDRの「価値」は日々IMFのホームページにて公表されている。例えば2004年10月22日現在のSDRは、表1の通りである。

表-1 2004年10月22日のSDR評価表

通貨	各国通貨量 (各国通貨建)	為替レート*	米ドル評価額
ユーロ	0.4260	1.26340	0.538208
日本円	21.0000	107.55000	0.195258
ポンド・スターリング	0.0984	1.82610	0.179688
米ドル	0.5770	1.00000	0.577000
			1.490154
		1.00USドル＝	0.671072SDR
		1SDR＝	1.49015USドル

*日本円の為替レートは円建、その他通貨の為替レートはUSドル建。

出所) http://www.imf.org/external/np/fin/rates/rms_sdrv.cfm

¹ SDRとは特別引出権（Special Drawing Right）のことである。

² また、金をSDRの価値尺度として位置づけており、金価値保証が与えられているものの、金との交換性はない。

当初のSDRは、金とのリンクにより、金をアンカーとする価値を有していたが、1974年以降の標準バスケット方式としてのSDR単位は、バスケット参加の各国通貨に各々のウェイトを乗じて寄せ集めた「価値」³に過ぎないのである。言い換えれば、金の価値というアンカーを失ったからこそ、標準バスケット方式によるSDRを創出せざるを得なかったものと考えられる。

次に1999年1月1日にユーロ誕生を実現させた欧州の例をみてみたい。周知のようにユーロは1999年1月にEU参加国のうち、11カ国のEMU (Economic and Monetary Union) 第3段階への以降によって実現された単一通貨である。確かに、単一通貨ユーロはその誕生の際に1ユーロ=1ECUとして各国通貨と交換されたという意味において、ECUをその前身としていたと言ってもよいし、そのECUはEUA⁴ (European Unit of Account : 欧州計算単位) から引き継がれた通貨単位であるから、一般的にユーロの実現には長い歴史を必要としたと言われる。しかし、1999年のユーロ誕生の時点で、1ユーロが1ECUの価値を引き継いだという事実はあっても、ユーロとはバスケット通貨である合成通貨ではなく、欧州中央銀行によって創造される単一通貨であり、まさしく貨幣そのものなのであるという点で、ユーロとECUの性質は全く異なるといわなければならない⁵。本稿で提案するACUとは、貨幣を意味する単一通貨 (single currency) ではなく、共通通貨単位 (common currency unit) あるいは共通計算単位 (common unit of account) としてのACUであるということを確認しておかなければならない。つまり「ユーロ」ではなく「ECU」に相当するのである。

ACUがユーロではなくECUに相当することを確認したうえで、ECUには2つの側面を有していたことも確認しておく必要がある。公的ECUと民間ECUという2つの顔である。

1979年に導入されたECUは、EMS参加各国の中央銀行が、自らが保有する金およびドルをEMCF (European Monetary Cooperation Fund : 欧州通貨協力基金) に預託する

³ 通貨の価値について、例えば、建部 [1992] は、「不換紙幣などそれ自身自己価値を持たないものが(中略)一般的な(価値—引用者)尺度になることはありえない」(p. 228) と述べており、兌換停止後の貨幣の「価値」に対する解釈を深めなければならない事を示唆している。

⁴ この計算単位の名称については、フランス語訳から「UCE」と呼ばれる場合もある。実際、近藤健彦氏の記述では「UCE」で統一されている。(近藤 [2003])

⁵ もっとも、1999年1月1日に誕生したユーロは、いわゆる帳簿通貨としてであって、実際の現金流通は、2002年1月1日まで待たなければならなかった。しかし、発券銀行としての中央銀行が欧州中央銀行となった時点(ユーロシステムの成立)で、ユーロが実現したと言ってよい。

見返りとして ECU の発給を受けるのであるが、これが公的 ECU である。つまり、公的 ECU とは、EC 加盟の各中央銀行が保有する金および米ドル準備の一部が、ECU という名称に変更されたに過ぎず、従って、民間取引における貨幣の役割を ECU が有するものではなく、各中央銀行間での決済、それも介入残高の決済手段として用いられる⁶に留まっていたのである。

これに対して、民間 ECU とは、「民間銀行が ECU バスケット構成諸通貨を公的 ECU と同じ比率で外国為替市場から調達し、それらを合成することによって無制限に作り出すことができる」⁷のであり、80 年代に入ってからその市場は急速に拡大した。

民間 ECU が拡大した理由について、近藤 [2003] によれば、ECU が為替リスクを軽減させるから⁸であり、資本市場での起債の建値（ニューメレール）として活発に利用されることにより、ECU は「欧州資本共通通貨」⁹として機能したと分析している。通貨バスケットにリスク低減効果が期待できることは次節で述べるが、こうした通貨バスケットの特性に対する期待効果によって、ECU 市場が拡大したのである。その後も順調に ECU 市場は拡大し、ついに 1988 年、ロンドン市場において英国国債が ECU 建てで起債され、民間 ECU の発展を決定的なものにしたのである。

貨幣であるユーロと法貨規定を持たない ECU との質的差異を根拠に、民間 ECU の利用拡大が自然成長的に単一通貨に至りつくというものではないという指摘¹⁰はあるものの、民間 ECU の発展が通貨統合という方向性に対して与えた影響は計り知れないものがあったと考えられる。

1-2 バスケット計算単位の技術的側面および特性

これまで通貨バスケットとしての SDR および ECU について、その経緯を確認したので、本節では通貨バスケットの技術的側面について検討したい。

まず SDR 標準バスケットの創出方法についてであるが、第 1 に、SDR バスケットに組入れる通貨を決定し、第 2 に、組入れられる通貨のウェイトを決定するという手続きがと

⁶ 岩田健治「民間 ECU の発展」, p. 283, 田中 [1996] 第 12 章所収。

⁷ 同上, p. 284。

⁸ 近藤 [2003] p. 57

⁹ 同上, p. 56

¹⁰ 岩田, 前掲, p. 309 の注 39 を参照のこと。

られた。ウエイト決定に関しては、16カ国の当該輸出合計額に対する各国輸出の比率を出発点として、国際通貨ドルを有する米国の割合を5割増しとした後、0.5%刻みの概数が採用された¹¹。そして、1974年6月27日を終点とする3ヵ月間(これを「基準期間」Base Periodという)における各通貨の対米ドル平均相場をもって各国通貨を米ドル建てで表現する際の為替レートとした¹²。というのも、各国通貨の組入れに関するウエイトが決定されたとしても、実際に各国通貨量を計算によって求めるためには、バスケット計算単位をあるひとつの通貨(ここでは「バスケット創設媒介通貨」と呼ぶことにしよう)で表現した後にウエイトに基づき「バスケット創設媒介通貨」建てで分配し、こうして分配された「バスケット創設媒介通貨」量に各国通貨の為替レートを乗ずることによって算出されなければならないからである。

1974年に標準バスケット方式による実際のSDRを創出する過程においては、上記の基本的なバスケット計算単位創出過程に加えて、基準期間の対米ドル相場と創出日(1974年7月1日)における対米ドル相場の不一致によって生ずる「バスケット創設媒介通貨」建て評価額の現実との乖離を埋め合わせる必要があるが、本稿の目的から外れるので割愛する¹³。

以上の標準バスケット方式によるSDR創出の過程が、ECUの前身で1975年に創設されたEUAの創出過程にも影響したと思われる。SDRではなく、独自のバスケット計算単位を採用することになったEC(European Community)であるが、各国通貨のウエイト決定に際しては、GNP、貿易シェア(1969-1973の5年間)および短期金融援助取決めの拠出比率が参考にされた¹⁴。従って、EUAを引き継ぐことになったECUについても、GDPおよびEC域内貿易に占めるシェアなどを勘案してウエイトが決定されている。

標準バスケット方式によるSDR創出の際のウエイトの決定に関して、IMFへの出資額に応じてウエイトが形成されたことについては、ある程度の合理性を認めることができる。しかしながら筆者が知る限り、ウエイトを決定する際に、GDPや貿易額を用いることに関して、そのような指標を採用しなければならない明確な根拠や理論は見当たらない。おそらくは、経済規模に応じてウエイトを決定することによって、域内経済の安定度を高めることができるというものであろうが、ウエイトの決定に関しては、今後、他の視点か

¹¹ 河西 [1975], pp. 6-7。

¹² 同上, pp. 8-9。

¹³ 詳しい手続きについては、河西 [1975] を参照されたい。

¹⁴ 河西宏之・倉田勝弘 [1975], p. 14。

らの十分な検討が求められよう。

通常、通貨バスケットに関する議論においては、いわゆる two corner solutions との関連で中間的な為替制度として捉えられているのであるが、この種の議論は、要するに一国の外国為替制度（公的なレジーム）を決定する際の選択肢として挙げられるものであり米ドルにペッグ（ハードペッグ）するか、フロート制を選択するか、あるいはその間に位置づけられる中間的レジームを選択するののかという議論として捉えることができる。また現実問題として、特に開発途上国にとっての為替制度の選択問題とは、投機の攻撃から自国通貨を守り抜くという観点からも重要であることは言うまでも無い。

こうした議論の特徴は、①まずなによりも、公的金融制度の観点から考えられており、②通貨バスケットへのペッグを維持することを目的とした技術的論点¹⁵が多いこと、③従って、ハードペッグおよびフロート制に比して技術的な複雑性や困難性が強調されている¹⁶と思われる。

しかしながら、通貨バスケットの概念そのものは、公的金融制度の枠組みの中に限られる必要はないし、また本来はその複雑性よりもむしろ通貨バスケットによる利点が強調されてよいと考える。

通貨バスケットの利点とは何か？ 我々は基本に立ち返り、その解を為替リスク低減効果に求めたい。しかもそれは、公的金融制度の枠組みに固執しないで、むしろ民間主体が得られる効果を重視したいのである。

通貨バスケットの為替リスク低減効果とは、資産ポートフォリオによるリスク低減効果と相通ずる性格を持つのであるが、金による価値の裏づけが存在しない現下の国際通貨制度の中で、「価値」変動の抑制が、複数の通貨への分散によって達成されうるという意味である。

IMFのエコノミストであった高木信二氏によれば、「通貨バスケットはある目的関数の最適化によって得られたウェイトにより加重平均された複合資産であるという意味で、

¹⁵ 技術的論点の最も代表的な問題は、通貨バスケットへのペッグを維持するための、通貨当局による介入の問題であろう。実際にIMFのエコノミストは、通貨バスケットを構成するすべての通貨に対してそれぞれの市場で介入を行う必要があり介入の複雑化を指摘しているとされているが、他方において Monetary Authorities of Singapore は実際にはシンガポールドル—米ドル外為市場のみで為替介入を行っており、通貨バスケット制の運営は複雑ではないと指摘している、という紹介もある。（小川他 [2001], pp. 4-5）。

¹⁶ 例えば、田中・金 [2004] では、ECUに対して為替ヘッジを充てる際には、構成9通貨に分解する必要があったために、例えばドル・ユーロ・円の3通貨に対してヘッジを充てる想定と比較した場合、コスト高であると述べている。

もっと一般的な金融資産から成るポートフォリオと見なすことができる」¹⁷と述べており分散投資の形態であるポートフォリオになぞらえて、そのリスク軽減効果について明快なる説明を行っている。要するに、通貨バスケットを構成する通貨同士の変動にマイナスの相関関係があれば、その通貨バスケット単位は、安定性を増すと考えられるのである。

当然のことながら、為替リスクの低減によって、収益機会を失う可能性もあろう。リターンはリスクをその源泉とするといっても過言ではないからである。今後米ドルが日本円に対して急激に減価することが予め予測可能な場合であれば、ドル資産を日本円資産に換えて保有すればよい。しかし、実際には将来の正確な予測などおおよそ不可能に近いはずであるし、予め予測可能な変動「リスク」はリスクとは呼べないであろう。リスクをどう捉えるかについての検討は本稿の目的ではないが、一般的に言ってリスクの軽減それ自体にメリットがあると考えてよい。

ここで、貨幣の機能を整理しておきたい。というのは、通貨バスケットは貨幣ではなく共通通貨単位であるが、両者の差異について明確な解を示しておく必要があると考えられるからである。貨幣の機能の分類には様々な用語が用いられ、必ずしもコンセンサスが成立しているとは言えないものの、ここでは表2のように分類する。

機能	部門	
	民間	公的
計算単位（ニューメール）	契約・表示通貨	基準通貨（為替ペッグ）
価値貯蔵手段	金融資産・投資通貨	準備通貨
決済手段	取引決済通貨	公的決済通貨・介入通貨

Pollard [2001] および上川・藤田・向 [2003]などを参考に作成。

このように分類すれば、通貨バスケットには、民間部門では契約・表示通貨としての機能が、また公的部門では基準通貨としての機能を有しており、それらは計算単位（ニューメール）機能であるといえよう。逆に言えば、合成通貨である通貨バスケットそのものには価値貯蔵手段および決済手段としての機能は備わっていないことがわかる。本稿で、通貨と貨幣という用語をあえて使い分けている背景には、通貨バスケットには貨幣の全ての機能が備わっておらず、にもかかわらず通貨という用語が充てられているからである。

¹⁷ 高木 [1989] p. 95。

通貨バスケットは貨幣ではないから、貨幣のすべての機能を有するとは言えないものの通貨バスケットの有する計算単位とは、通常、貨幣にみられる計算単位の域にとどまるものではない。価値貯蔵機能に関して言えば、どの通貨建てで保有するかは極めて重要な要素であるが、一つの通貨に限定して保有するよりも、複数通貨建てで分散して保有する場合のほうが、変動リスクを低減させることが期待できる。このことは先にも見たポートフォリオによる分散投資の考え方である。一旦、バスケット構成通貨に分解して各国通貨建てで資産を保有し、そのポートフォリオが価値貯蔵手段としての機能を終えるとき、分解前の当該通貨に交換すると、他のひとつの通貨で価値を貯蔵した場合と比べて、変動幅の縮小が達成されることは十分に期待できる。

貨幣論レベルでの詳細な定義ではないが、通貨バスケットのこうした効用が、ニューメールとして貨幣の計算単位機能に相当するだけでなく、その計算単位機能を介することで本来の貨幣の価値貯蔵手段と同じ役割を担うことができる。もちろん、貨幣としてではなく、それらの合成通貨として、であるが。

2 ACU創設の提案

これまで、アジアに共通通貨単位を創設する意義およびバスケット計算単位の誕生について、その経緯および技術的な側面を概観してきた。そこで、いよいよアジア地域における共通通貨単位ACUの創設を提案してみたい。

まず、ここで提案するアジア共通通貨（ACU）とは、ユーロのような単一通貨を意味するのではなく、組入れ国の国民通貨を、ある基準によって算出されたウエイトに基づいて合成した通貨バスケットであり、通貨の実態としては各国の国民通貨である。従って、あくまでも共通計算単位の域を脱するものではないということを確認しておきたい。それが通貨バスケットの原点である。

2-1 ACUの理念および構成通貨

アジア太平洋経済は、日本円・米ドルレートの変動によって大きく左右され、域内実効為替レートが変動することによって、時として混乱をもたらす要因にもなってきた。例えば、日本円が米ドルに対して急激な変動を起こす場合には、米ドルに対して固定している

中国人民元の域内実効為替レートが急激に変動することになる。

また今日では、グローバル・ファイナンスの時代にあつて、資本収支面の重要性が極めて高い。米国の赤字をアジアがファイナンスしていると言われ¹⁸、米国金融市場において特に日本や中国のプレゼンスがますます上昇する結果となっている。

こうした米国に対するアジアのファイナンスがサステナブルか否かについては、米国自身が最も懸念する問題であろう。従つて、米国はアジア太平洋地域における国際金融アレンジメントに積極的にコミットし、国際金融市場に対するショックを可及的排除しなければならない。

また中国は、現在、事実上米ドルにペッグしている中国人民元について、今後長きに渡つて現状を維持できるとは考えていないであろう。今日、人民元切上げという論点は、国際金融上の焦点となっている。

またアジアでは、産業内貿易の急速な増加によって域内貿易の割合が急増している¹⁹し赤松要氏および小島清氏のいう「雁行型経済発展論」²⁰からも、もともとアジア地域での経済関係が親密であることを確認することができる。国際金融市場に対して与える影響は資本収支側面が経常収支側面よりも多大であるものの、実体経済の密接なリンケージの重要性を看過してはならない。

米国はドル体制の将来を、そして中国は米ドルペッグからの脱却というそれぞれ重要な課題に直面し、また日本も、アジア地域における円のプレゼンスの維持・向上を真剣に論議する必要がある。そして何より、他のアジア諸国にとつても、アジア太平洋における通貨アレンジメント問題は、すこぶる重要であるので、政治的および経済的に比較的プレゼンスの高い日本・中国・米国が、アジア太平洋経済の安定化についての議論をリードしなければならないのである。ここにアジア太平洋地域における通貨協力の根拠がある。

しかしながら、通貨問題はもっとも重要な政治問題の一つであり、国際通貨アレンジメントの問題において、IPEの観点からも経済的側面からのみ進展すると考えるのは適切ではない。従つて政治的決断やヘゲモニー問題の重要性を認識しつつ、そしてEMSにおける民間ECUの発展という事実にあい、まずは民間主体で共通通貨単位であるACUを

¹⁸ このことは、金融理論的にいえば、日本などが自国から資金を供給して米国に対してファイナンスしているというよりは、米国で供給された米ドルを日本やその他諸国が米国の金融資産として保有しているということなのである。米ドル供給の起点は、米国自身にあることは言うまでも無い。

¹⁹ Zebregs [2004] を参照されたい。

²⁰ 小島 [2000] では、雁行型経済発展論についての総合的検討を行っている。

創設し、最終的なアジア太平洋地域における国際通貨アレンジメントに向けたインフラを整備することが必要であると考えられる。共通通貨単位の特性が認知されることによって、アジアにおいてもその市場が拡大されると期待できる。これがACU創設の理念である。

ところで、ACUへの組入れ通貨の決定についてであるが、米ドル・日本円・ユーロの3つの通貨を組入れることが一般的であると思われる²¹。しかし、アジアを広域で捉え、第1章で確認した通貨バスケットのメリットを最大限に活かすために、本稿ではまずユーロをACUから除外し、アジアにおける経済関係の関連からインドをACUに組み込むこととする。その一方で、例えばベトナムなどの小国については、実際にウエイトを算出した場合でも1%以下になることから、除外している。

ユーロという世界第二の国際通貨をACUに組み入れない理由は、仮に組み入れてしまえば既にあるSDRとの違いが見えにくくなり、アジア共通通貨単位としての意義が薄れてしまうと考えからである。ECUにしても、米ドルはともかくとして日本円やその他の通貨を組み込むことはなかったのであるし、米ドル・ユーロ・円の3つの通貨で構成される通貨バスケットが提唱される一般的な議論では、アジア太平洋地域におけるアレンジメントという意味合いを認識することは難しい。

ACUは、為替相場を安定化のために、アジア諸国通貨を米ドル・ユーロ・日本円等で構成される通貨バスケットにペッグすれば良いという性格のものではない。

従って、本稿で提案するACUは、日本円 (JPY)・韓国ウォン (KRW)・中国人民元 (CNY)・インドルピー (INR)・インドネシアルピア (IDR)・マレーシアリング (MYR)・タイバーツ (THB)・香港ドル (HKD)・台湾ドル (TWD)・フィリピンペソ (PHP)・シンガポールドル (SGD)・米ドル (USD)、以上12カ国通貨によって構成される。

$$1ACU = \alpha_1 \cdot JPY + \alpha_2 \cdot KRW + \alpha_3 \cdot CNY \cdots + \alpha_{12} \cdot USD$$

$$= \sum_{i=1}^{12} \alpha_i \cdot NC_i$$

$i = 1, 2, \dots, 12 =$ 日本, 韓国, \dots , 米国

$NC_i =$ 各国通貨

$\alpha_i =$ 12カ国通貨 (NC_i) それぞれの1ACUに組込むウエイト

²¹ Kwan [2001]・絹川 [2002]・田中 [2004]等を参照されたい。ウエイトの差こそあれ、組入れ通貨を米ドル・ユーロ・日本円とすることにおいては一致している。

以上、本稿におけるACUが12カ国通貨によって構成されると定義した上で、次節では概念を行動に移して、実験的にACUを創設することにしよう。

2-2 ACUの実験的創設

通貨バスケットを創設する際、もっとも重要な課題のひとつは、各国通貨の組入れ比率に関わるウェイトの決定である。本稿においては、以下の3つのパターンに分類した。すなわち、①輸出額割合によるウェイト、②GDP額割合によるウェイト、③輸出額およびGDP額割合によるウェイト、以上である。更に、本稿においてはインドルピーをACUに組み込むのであるが、インドにおいて、IMFの資金援助の下、為替レート自由化や関税引下げを内容とする経済改革（NEP：New Economic Policy）が実施されたのは1990年代以降のことであるから、インドルピーについては1990年代から組み入れることが適切であると考えた。そのため、1980年代および1990年から2002年までの2種類のACUをそれぞれ想定した。

ACUの設定に際しては、まず、各国通貨のウェイト決定式を以下のように定義する。

$$(\alpha_i)_\beta = \frac{S_{i \cdot \beta}}{\sum_{i=1}^m S_{i \cdot \beta} / m}$$

$$i=1, 2, \dots, 12 \quad \beta=\text{export, GDP, export\&GDP}$$

ここで変数は、 α は組入れ国のウェイト、 i は個別組入れ国、 β はウェイトの種類、 m は組入れ国総数、 n はウェイト決定に関して採用した期間を表す。なお、 $S_{i \cdot \beta}$ は、各国の期間内平均値を表し、以下の式で算出される。

$$S_{i \cdot \beta} = \sum_{t=1}^n \beta_{i \cdot t} / n$$

β は、ウェイト決定に際して採用したデータ種類を表しており、つまり①輸出額割合によるウェイト、②GDP額割合によるウェイト、③輸出額およびGDP額割合によるウェイトの3種類である。ただし、③については、①および②をそれぞれ同率割合（50%：50%）で組入れるものとする。

①輸出額割合によるウエイト

通貨バスケットであるACUの設定に際しては、まず1ACUが何らかの「価値」に等しいという条件をおくことが必要である。ここでは、1980年および1990年の1SDRが1ACUに等しいという設定で相対価値を設定した。

まず、1980年から1989年までの10年間における貿易輸出額を各国ごとに平均を出し、各国の平均値の合計を100%として、ウエイトを算出した。(本節におけるデータの出所は、特に記述が無い限り、IMF-IFS (CD-ROM, 2004, Sept.), 台湾についてはADB:Key Indicators 2003, である。)

1ACU=1SDR, 1SDR=1.28US\$ (1980年の米ドルとのSDR平均レート)より、1ACU=1.28US\$となり、まずは1.28US\$をウエイトに従って分配することで、1ACUの中に組み込まれる米ドル建ての各国通貨量が決定される。これに1980~1989年における各国通貨の対米ドル平均為替相場(各国通貨建て)を乗ずることによって、1ACUに組入れられる自国通貨建ての各国通貨量が求められることになる(表-3)。同様に、1SDR=1.42US\$として、1990年から2002年までの輸出額ウエイトによってACUを求めたものが表-4である。

表-3 輸出額ウエイトによるACUバスケット(1980~1989年)

国別	通貨名称	1980~1989年の輸出額によるウエイト	各国通貨の組入れ額(USD建て) [A]	1980~1989年における各国通貨の対米ドル平均為替相場(各国通貨建て) [B]	各国通貨の組入れ額(自国通貨建て) [C]=[A]×[B]
Japan	JPY	28.85%	0.369289995	198.9197	73.46
Korea	KRW	5.32%	0.068143944	757.8233	51.64
China	CNY	4.70%	0.060134519	2.698994	0.16
Indonesia	IDR	3.11%	0.039821514	1134.8127	45.19
Malaysia	MYR	2.44%	0.031263138	2.439302	0.08
Thailand	THB	1.49%	0.019101199	24.21129	0.46
Hong Kong	HKD	5.53%	0.070793524	7.071675	0.50
Taiwan	TWD	5.65%	0.072271498	36.3418	2.63
Philippines	PHP	0.86%	0.010993043	15.415315	0.17
Singapore	SGD	4.03%	0.051641329	2.108628	0.11
United States	USD	38.01%	0.486546298	1	0.49
		100.00%	1.28		

1980年の米ドルの対SDR相場(平均レート): 1SDR=1.28US\$

表-4 輸出額ウエイトによるACUバスケット (1990-2002)

国別	通貨名称	1990~2002年の輸出額によるウエイト	各国通貨の組入れ額 (USD 建) [A]	1990~2002年における各国通貨の対米ドル平均為替相場 (各国通貨建) [B]	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建) [C]=[A]×[B]
Japan	JPY	21.11%	0.2997817	118.68305	35.58
Korea	KRW	6.41%	0.0910495	970.63077	88.38
China	CNY	8.86%	0.1258425	7.4113108	0.93
India	INR	1.68%	0.0238702	35.173669	0.84
Indonesia	IDR	2.44%	0.0347089	4879.5154	169.36
Malaysia	MYR	3.65%	0.0518332	3.0891208	0.16
Thailand	THB	2.70%	0.0383784	31.943931	1.23
Hong Kong	HKD	8.59%	0.1220277	7.7591792	0.95
Taiwan	TWD	5.74%	0.081578	27.893731	2.28
Philippines	PHP	1.20%	0.0170338	33.770023	0.58
Singapore	SGD	5.50%	0.0780574	1.63841	0.13
United States	USD	32.10%	0.4558389	1	0.46
		100%	1.42		

1990年の米ドルの対SDR相場(平均レート): 1SDR=1.42US\$

②GDP額割合によるウエイト

さて、次にGDP額割合ウエイトによるACUの設定である。基本的な求め方は、①貿易額割合によるACUと同様である。表-5は80年代のGDP額ウエイトによるACUを、表-6では1990年から2002年までのそれによるACUをそれぞれ表している。

表-5 GDP額ウエイトによるACUバスケット (80年代)

国別	通貨名称	1980~1989年のGDPウエイト	各国通貨の組入れ額 (USD 建) [A]	1980~1989年における各国通貨の対米ドル平均為替相場 (各国通貨建) [B]	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建) [C]=[A]×[B]
Japan	JPY	26.73%	0.342182096	198.9197	68.07
Korea	KRW	1.69%	0.021664497	757.8233	16.42
China	CNY	4.91%	0.062847317	2.698994	0.17
Indonesia	IDR	1.33%	0.016978796	1134.8127	19.27
Malaysia	MYR	0.46%	0.005929157	2.439302	0.01
Thailand	THB	0.69%	0.008770418	24.21129	0.21
Hong Kong	HKD	0.61%	0.007843468	7.071675	0.06
Taiwan	TWD	1.15%	0.01477548	35.6072	0.53
Philippines	PHP	0.52%	0.006675915	15.415458	0.10
Singapore	SGD	0.29%	0.003651038	2.108628	0.01
United States	USD	61.62%	0.788681817	1	0.79
		100%	1.28		

1980年の米ドルの対SDR相場(平均レート): 1SDR=1.28US\$

表-6 GDP額ウエイトによるACUバスケット (1990-2002)

国別	通貨名称	1990~2002年のGDPウエイト	各国通貨の組入れ額 (USD 建) [A]	1990~2002年における各国通貨の対米ドル平均為替相場 (各国通貨建) [B]	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建) [C]=[A]×[B]
Japan	JPY	28.75%	0.408239	118.68305	48.45
Korea	KRW	2.89%	0.0410691	970.63077	39.86
China	CNY	5.38%	0.0764264	7.4113108	0.57
India	INR	2.62%	0.0371531	35.173669	1.31
Indonesia	IDR	1.08%	0.0153028	4879.5154	74.67
Malaysia	MYR	0.53%	0.007481	3.0891208	0.02
Thailand	THB	0.87%	0.0123511	31.943931	0.39
Hong Kong	HKD	0.94%	0.0133751	7.7591792	0.10
Taiwan	TWD	1.72%	0.0243633	29.035077	0.71
Philippines	PHP	0.45%	0.0064252	33.770023	0.22
Singapore	SGD	0.50%	0.0071375	1.63841	0.01
United States	USD	54.27%	0.7706763	1	0.77
		100%	1.42		

1990年の米ドルの対SDR相場(平均レート): 1SDR=1.42US\$

③輸出額およびGDP額割合によるウエイト

最後に、①および②のウエイトを50%:50%で等分し、輸出額およびGDP額によるウエイトである。表-7は80年代のGDP額ウエイトによるACUを、表-8は1990年から2002年までのそれによるACUをそれぞれ表している。

表-7 輸出額およびGDP額ウエイトによるACUバスケット (80年代)

国別	通貨名称	1980~1989年の輸出額およびGDP額によるウエイト	各国通貨の組入れ額 (USD 建) [A]	1980~1989年における各国通貨の対米ドル平均為替相場 (各国通貨建) [B]	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建) [C]=[A]×[B]
Japan	JPY	27.79%	0.355736	198.9197	70.76
Korea	KRW	3.51%	0.044904	757.8233	34.03
China	CNY	4.80%	0.061491	2.698994	0.17
Indonesia	IDR	2.22%	0.0284	1134.813	32.23
Malaysia	MYR	1.45%	0.018596	2.439302	0.05
Thailand	THB	1.09%	0.013936	24.21129	0.34
Hong Kong	HKD	3.07%	0.039318	7.071675	0.28
Taiwan	TWD	3.40%	0.043523	35.6072	1.55
Philippines	PHP	0.69%	0.008834	15.41546	0.14
Singapore	SGD	2.16%	0.027646	2.108628	0.06
United States	USD	49.81%	0.637614	1	0.64
		100%	1.28		

1980年の米ドルの対SDR相場(平均レート): 1SDR=1.28US\$

表－8 輸出額およびGDP額ウエイトによるACUバスケット（1990－2002）

国別	通貨名称	1990～2002年の輸出額およびGDP額によるウエイト	各国通貨の組入れ額（USD建） [A]	1990～2002年における各国通貨の対米ドル平均為替相場（各国通貨建） [B]	各国通貨の組入れ額（自国通貨建） [C]=[A]×[B]
Japan	JPY	24.93%	0.35401	118.68305	42.02
Korea	KRW	4.65%	0.066059	970.63077	64.12
China	CNY	7.12%	0.101134	7.4113108	0.75
India	INR	2.15%	0.030512	35.173669	1.07
Indonesia	IDR	1.76%	0.025006	4879.5154	122.02
Malaysia	MYR	2.09%	0.029657	3.0891208	0.09
Thailand	THB	1.79%	0.025365	31.943931	0.81
Hong Kong	HKD	4.77%	0.067701	7.7591792	0.53
Taiwan	TWD	3.73%	0.052971	29.035077	1.54
Philippines	PHP	0.83%	0.011729	33.770023	0.40
Singapore	SGD	3.00%	0.042597	1.63841	0.07
United States	USD	43.19%	0.613258	1	0.61
		100%	1.42		

1990年の米ドルの対SDR相場（平均レート）：1SDR=1.42US\$

以上で、①輸出額割合によるウエイト、②GDP額割合によるウエイト、③輸出額およびGDP額割合によるウエイト別分類、および80年代と1990年から2002年までのターム別分類で、計6パターンのACUが設定された。

1ACUの概念は、NCを各国通貨とすると、次式の通りである。

$$(1ACU)_{\beta} = \sum_{i=1}^m \left[\left(\alpha_{i(\beta)} \cdot \frac{USD_{(b)}}{SDR_{(b)}} \right) \cdot \left(\frac{NC_i \cdot average(t)}{USD_{average(t)}} \right) \right]$$

なお、 $1SDR_{USD(b)}$ は起点となるb年（1980年または1990年）の1SDRの米ドル建て表示額である。

2-3 ACUの為替リスク低減シミュレーション

前節において、ウエイト別・ターム別に計6パターンのACUを設定したのであるが、まずは、それぞれのACUが、実際にどのような変動を見せるのかについて検証する。

具体的には、前節で求めた1ACUに含まれる各国通貨量に、各年毎の、各国通貨の対SDRレートの逆数を乗ずることによって、当該年の1ACUの中に含まれるSDR建て

各国通貨量が求められる。構成通貨全てに対して求められる SDR 建て各国通貨量を合計すれば、当該年の 1 ACU が SDR 建てで表示されることになる²²。

以上のように、1 ACU の SDR 建て「価値」を算出すると、表-9 になる。

表-9 ACU の SDR 建て推移

1980-1989	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989			
輸出額	1.10270	1.15548	1.16495	1.18548	1.20282	1.13001	1.07776	1.04075	1.10109	1.07215			
ウエイト													
GDP	1.05840	1.12100	1.15004	1.19788	1.22537	1.14712	1.09233	1.03238	1.08365	1.05259			
ウエイト													
輸出額・GDP	1.07997	1.13762	1.15688	1.19105	1.21341	1.13796	1.08447	1.03597	1.09168	1.06161			
ウエイト													
1990-2002	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
輸出額	1.10051	1.09000	1.12886	1.14118	1.07522	1.04790	1.04576	0.98800	0.95745	1.01692	1.02373	1.01721	0.96979
ウエイト													
GDP	1.04388	1.03569	1.07329	1.09731	1.04904	1.01739	1.00968	1.00516	0.99102	1.05870	1.06708	1.05922	1.00931
ウエイト													
輸出額・GDP	1.07341	1.06406	1.10242	1.12053	1.06333	1.03383	1.02890	0.99811	0.97522	1.03886	1.04655	1.03931	0.99054
ウエイト													

注) 1980-1989 の ACU は 11 カ国通貨で構成され (インドを除外)、1990-2002 の ACU は 12 カ国通貨で構成される。

表-9 をグラフにしたものが、図-1 および図-2 である。みられるように、輸出額および GDP 額割合によるウエイトは、輸出額割合によるウエイトと GDP 額割合によるウエイトとの比率を 50 : 50 としているのので、いずれのタームにおいても、両者の丁度中間に位置している。従って、この限りにおいて、ACU レートの変動は国内経済と輸出の両側面に影響を与えるという観点から、このシミュレーションからは輸出額および GDP 額割合によるウエイトを採用することが比較的望ましい。しかしながら、この結果は常に成立するとはいえない。例えば、1998 年から 2002 年までの 5 年間の平均為替レート、GDP および輸出額のみによってバスケットを決定し、2002 年を基準として、1970 年まで遡って SDR 建ての ACU を算出した場合では、GDP 額割合によるウエイトをとった ACU がもっとも SDR との乖離率が低く、次いで、輸出額および GDP 額割合によるウエイト、もっとも乖離率が大きかったのが輸出額割合によるウエイトという結果が得られた。

(図は省略)

このことは、ACU 構成各国の GDP 成長率と輸出額の成長率との比率に大きなギャップが見られることが影響していると考えられる。従って、バスケット構成のウエイトは、

²² 本来であれば、1980 年または 1990 年の 1 ACU が同年の 1 SDR に等しくなるように調整を行う必要があるが、議論の単純化のために省略している。起点となる年の 1 ACU と 1 SDR とか完全に一致していないのは、1 ACU に組入れられる各国通貨量 (自国通貨建て) を算出するために、「バスケット創設媒介通貨」建ての組入れ額に、自国通貨の対「バスケット創設媒介通貨」レートを乗ずるが、この「バスケット創設媒介通貨」レートが、基準年単年の平均為替レートではなく、ウエイト決定に採用した期間全体に対する平均レートを採用しているためである。

一定年数ごとに変更されることが必要であると思われる。

図-1 ACUのSDR建て推移（1980-1989）

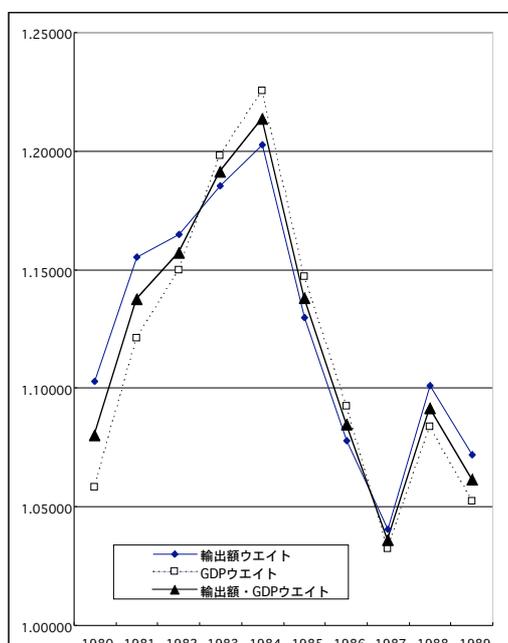
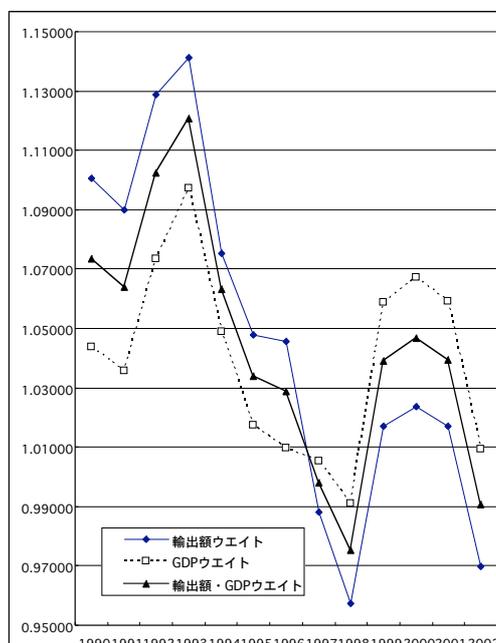


図-2 ACUのSDR建て推移（1990-2002）

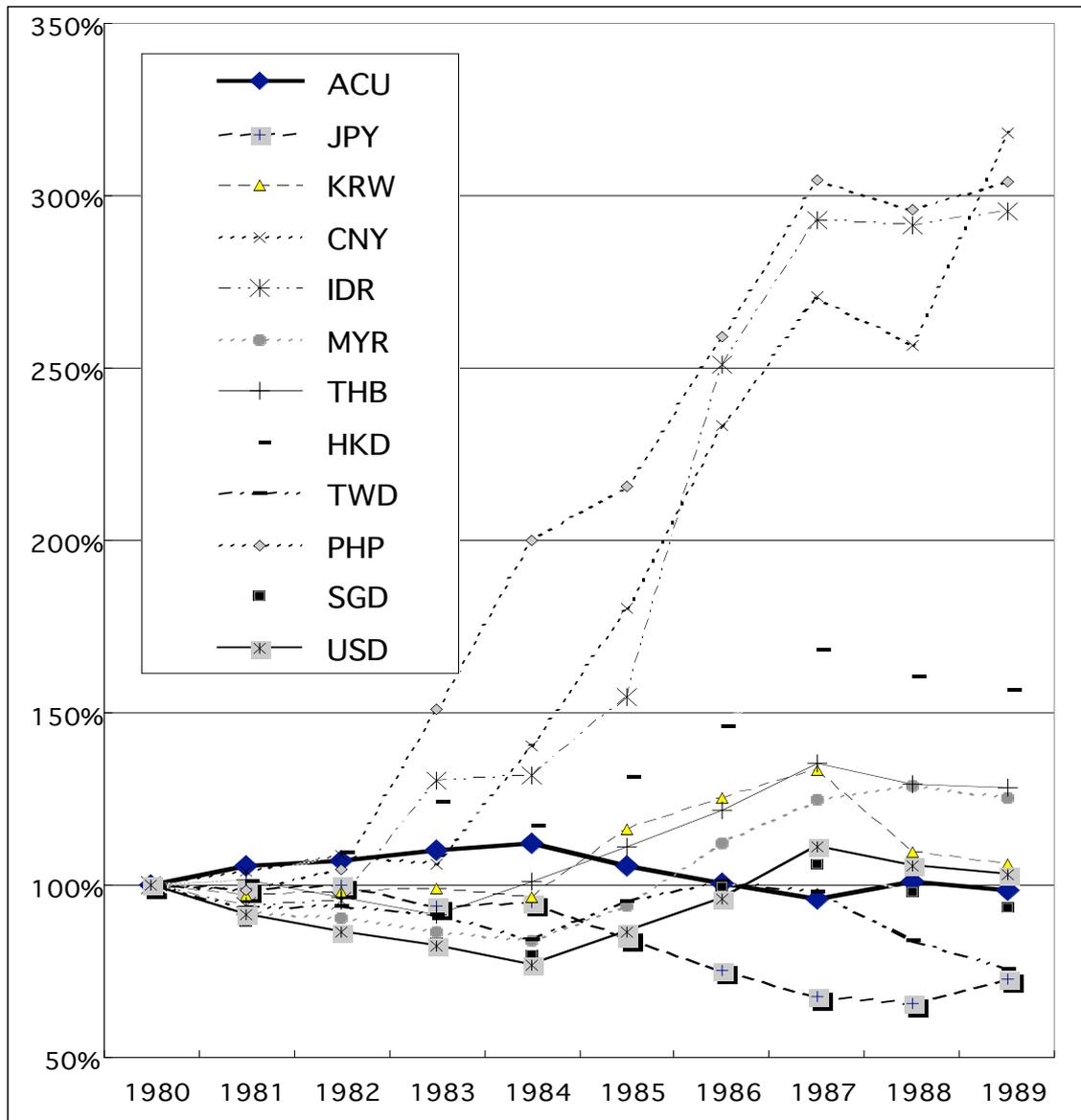


次に、ACUのリスク低減効果について検討したい。本節のシミュレーションでは、輸出額およびGDP額割合によるウエイトに従ったACUがもっとも変動幅が小さかったことから、これを採用した。このウエイトによって算出されるACUの対SDRレートと、各国通貨の対SDRレートとを比較した場合（図-3および図-4）、いずれの通貨と比較しても本稿で設定したACUがもっとも変動率が小さいことがわかる。

ACUの変動率が他の各国通貨に比して最も小さいということは、第1章第2節でみたように、通貨バスケットの特性であるリスク低減効果が認められるということである。従ってACUは貨幣機能でいうところの投資通貨機能を有する最も安定した計算単位であるとも言えよう。

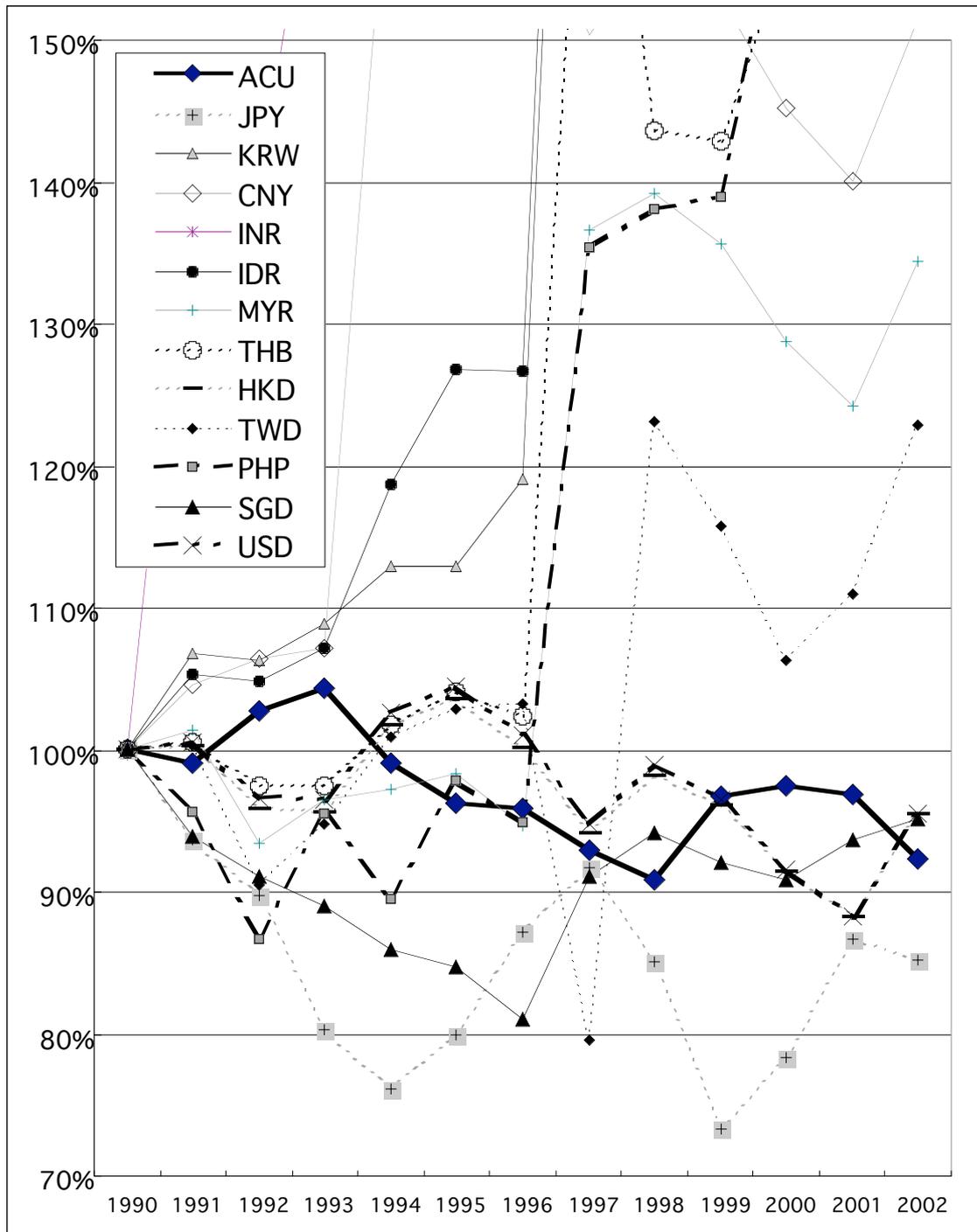
共通計算単位であり公的に外貨として認定されていないACUを利用する場合には、ACU建てで契約・支払計算を行うことはできるが、実際の貨幣機能は各国民通貨が担うことになる。また、ACU→各国通貨に変換する際には、各国通貨→ACUの時点で原資となった各国通貨建ての貨幣量とは一致しない。しかしながら、一つの外貨に変換し当該国民通貨を買い戻す仮定のケースと比較した場合、ACUを選択した場合の変動リスクの方が軽減されているケースが多いことが期待される。まさにこの期待こそ、ACU創設の意義なのである。

図-3 ACUおよび各国通貨の対SDRレート（1980-1989）[初年度を100%とした推移]



出所) IMF Financial Statistics, 2004.Sept より対前年変動比として加工し作成。

図-4 ACUおよび各国通貨の対SDRレート（1990-2002）〔初年度を100%とした推移〕



出所) IMF Financial Statistics, 2004.Sept より対前年変動比として加工し作成。
 注) 紙面の都合により、変動率の上限を150%とした。

共通計算単位としてのACUの特性を以上のように捉えるならば、先物予約などのヘッジ手段や為替マリー、リーズ・アンド・ラグズなどの為替リスク管理に並んで、ACUを為替リスク管理の手段として考えることができるし、外国為替リスク低減の実現を媒介するとも言える。

証券投資などでは、リスク管理の手段として分散投資が基本であろう。マイナスの相関関係にある銘柄を一つのポートフォリオとして保有することで、リスクの低減効果が期待できるのと同様に、価値の貯蔵手段としての投資通貨機能の側面から、変動リスクを抑えたいと考えるのは自然であり、そのために米ドル一極集中ではなく、日本円や中国人民元など、複数の通貨を同時に自らのポートフォリオとして保有しようというのが、通貨バスケットであり共通通貨単位であるACU創設の出発点を成している。

結びに代えて：ACUの課題と展望

筆者の知る限り、アジア太平洋地域における共通通貨単位導入の必要性を最初に主張したのは、近藤 [1995] である。また、たとえACUが直ちに公的な為替レジームに結びつかなくとも、その利用によって民間主体にリスク低減効果をもたらす可能性については既に確認したとおりである。しかしながら、一般事業会社や個人を含めた民間主体が幅広くこの特性を十分に認識し、ACUの利用のインセンティブを有するようになるには、様々な課題が残されている。

ACUの普及に関して最も重い障害であると考えられるのは、やはり取引コストの問題ではないだろうか。ACUを構成する12通貨それぞれに民間主体が個別にアクセスするにはコスト高であり、ACUの有する折角のリスク低減期待が削がれてしまう恐れがある。

ACUを分解すれば、つまるところ各国民通貨なのであるから、ACU建ての資産保有額に対して、各国民通貨建ての負債が対応すればバランスシート上に理論的な不都合が生ずることはない²³。しかしながら、現実としては、ACU建ての資産運用勘定の厚みに対しては、ACU建ての負債調達勘定の厚みをもって対応することが望ましいと思われる。なぜならば、市場への期待が双方向から集中することでACU市場自体の厚みが増すと期

²³ ここで言うバランスシート上の問題とは、自国通貨建て預金の決済機関である市中銀行および中央銀行のバランスシートの側面を意味しているのであって、一国の銀行システム全体をマクロ的に捉えた場合のそれである。

待されるからである。

投資のための合成通貨としてACUを利用したいと考える主体にとっては、同時に資金調達の媒介としてACUを利用しようとする主体の出現が重要なのであり、その逆もまた真なのである。

そこで着目すべきは、「アジア共通債券市場」創設に向けた提案²⁴である。この提案は、二つの点で重要である。ひとつは、共通通貨単位ACUの特長が認識され、為替リスク低減を現実化させるためのインフラが整備されるという点で重要である。

そしていまひとつの視点は、アジア太平洋地域の通貨アレンジメント、ひいてはアジア太平洋のマネーフローに変化をもたらす可能性が大きいという点で重要である。ACUの創設とアジア共通債券市場、そしてFTA構築がトータルプランとしてアジア太平洋地域の経済安定に資することが期待される。政治主導の重要性を認識しつつも、ACU創設がマーケットフォースとなってそれらの動きを加速させることができるはずである。その際、何よりも重要なファクターとなるのはアジア太平洋地域に住む人々の認識であろう。

本稿では、通貨バスケットが有する特性に焦点を当て、独自の構成によるACUの創設を提案した。本稿におけるACUが特長を有する点としては、第一に、構成通貨に米ドルおよびインドルピーを組入れている点である。特にアジア太平洋地域において密接な結びつきを持つ米国を、通貨アレンジメントから排除することは適当ではない。第二に、当初から公的な通貨アレンジメントに利用する目的では無いという点である。「上からの」国際金融システムの構築のみならず、マーケットから発信される「下からの」国際金融アーキテクチャの重要性をも認識する必要がある。Strange [1994] のいうところの、国家と市場との関係あるいは対立という概念の認識が極めて重要なのである。

²⁴ 絹川 [2002], 近藤 [2004] を参照されたい。

【参考文献】

- 石山嘉英 [2004] 『通貨金融危機と国際マクロ経済学』 日本評論社
- 岩田健治 [1996] 『欧州の金融統合』 日本経済評論社
——編著 [2003] 『ユーロとEUの金融システム』 日本経済評論社
- 岡倉天心 [1986] 『東洋の理想』 講談社
- 小川英治他 [2001] 「通貨バスケット制実施国の実態調査」 財団法人国際通貨研究所
- 小島 清 [2000] 「雁行型経済発展論・再検討」 『駿河台経済論集』 第9巻第2号, 駿河台大学経済学部
- 緒田原涓一 [2002] 『アジアにおける国際金融協力』 国立出版
- 上川孝夫・向寿一・藤田誠一編著 [2003] 『現代国際金融論 (新版)』 有斐閣
- 河西宏之 [1975] 「標準バスケット方式のSDRについて」 『東京銀行月報』 第27巻第6号, 1975年6月号
——・倉田勝弘 [1975] 「欧州計算単位について」 『東京銀行月報』 第27巻第10号, 1975年10月号
- 絹川直良 [2002] 「今こそ東アジアで域内債市場の振興に取り組もう」 『国際金融』 第1097号, 外国為替貿易研究会
- 紺井博則・上川孝夫編著 [2003] 『グローバリゼーションと国際通貨』 日本経済評論社。
- 近藤健彦 [1995] 「“APEC共通通貨単位”を提案する—コスト論なき「円圏論」を排す」 『金融財政事情』 第46巻第24号, 1995年6月26日号, 金融財政事情研究会
—— [2000] 『アジア太平洋共通通貨論』 日本貿易振興会
—— [2003] 『アジア共通通貨戦略』 彩流社
—— [2004] 「沖縄でACU債発行を」 2004年5月14日付『日本経済新聞』 「経済教室」 掲載
- 高木信二 [1989] 『為替レート変動と国際通貨制度』 東洋経済新報社
- 建部正義 [1992] 「金融理論の展開」, 谷田庄三・野田正穂・久留間健編『現代の金融 (上)』, 大月書店, 第11章所収
- 田中素香編著 [1996] 『EMS』 有斐閣
——・金 明浩 [2004] 「ドル・ユーロ・円の通貨バスケットによる東アジアの為替相場協力」 『世界経済評論』 2004年11月号, Vol. 48 No. 11, 世界経済研究協会
- 根本忠宣 [2003] 『基軸通貨の政治経済学』 学文社
- Bayoumi, Tamim and Barry Eichengreen [2000] “On Regional Monetary Arrangements for ASEAN” CEPR Discussion Paper, No.2411.
- Kwan C.H. [2001] *The Economics of a Yen Bloc*, Brookings Institution Press
- Patricia S. Pollard [2001] “The Creation of the Euro and the Role of the Dollar in International Markets” *Federal Reserve Bank of St. Louis Review*, September/October 2001, 83(5), pp. 17-36
- Strange, Susan [1994] *States and Markets*, 2nd edition, London: Pinter Publishers. (西川潤・佐藤元彦訳 [1994] 『国際政治経済学入門——国家と市場』 東洋経済新報社)
- Zebregs, Harm [2004] “Intraregional Trade in Emerging Asia” IMF Policy Discussion Paper, April 2004.

Appendix 1 : 輸出額ウエイトによるACUバスケット (1980-1989年)

輸出額ウエイトによるACUバスケット (1980-1989年)		1980-1989年の輸出 額によるウエイト	各国通貨の組入れ額 (ウ エイト× 1SDR=US\$1.28)	1980-1989年におけ る各国通貨の対米ドル平 均為替相場 (各国通貨 建て)	各国通貨の組入れ額 (自 国通貨建て)
Japan	JPY	28.85%	0.3693	198.92	73.46
Korea	KRW	5.32%	0.0681	757.82	51.64
China	CNY	4.70%	0.0601	2.70	0.16
Indonesia	IDR	3.11%	0.0398	1,134.81	45.19
Malaysia	MYR	2.44%	0.0313	2.44	0.08
Thailand	THB	1.49%	0.0191	24.21	0.46
Hong Kong	HKD	5.53%	0.0708	7.07	0.50
Taiwan	TWD	5.65%	0.0723	36.34	2.63
Philippines	PHP	0.86%	0.0110	15.42	0.17
Singapore	SGD	4.03%	0.0516	2.11	0.11
United States	USD	38.01%	0.4865	1.00	0.49
		100.00%			

1980年の米ドルの対SDR相場：1SDR=1.28U

1980-1989年の対米ドル相場		1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	JPY	226.74	237.51	168.52	137.96	198.92
Korea	KRW	607.43	775.75	881.45	671.46	757.82
China	CNY	1.50	1.98	3.45	3.77	2.70
Indonesia	IDR	626.99	909.27	1,282.56	1,770.06	1,134.81
Malaysia	MYR	2.18	2.32	2.58	2.71	2.44
Thailand	THB	20.48	23.00	26.30	25.70	24.21
Hong Kong	HKD	4.98	7.27	7.80	7.80	7.07
Taiwan	TWD	36.02	40.07	37.84	27.66	36.34
Philippines	PHP	7.51	11.11	20.39	21.74	15.42
Singapore	SGD	2.14	2.11	2.18	1.95	2.11
United States	USD	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1980-1989年の対SDR相場 (各国通貨建て)		1980	1983	1986	1989
Japan	JPY	258.91	243.10	194.61	188.52
Korea	KRW	841.64	832.85	1,053.66	893.10
China	CNY	1.95	2.07	4.55	6.21
Indonesia	IDR	799.36	1,040.67	2,007.25	2,361.55
Malaysia	MYR	2.83	2.45	3.18	3.55
Thailand	THB	26.31	24.08	31.96	33.76
Hong Kong	HKD	6.54	8.15	9.53	10.26
Taiwan	TWD	45.93	41.95	46.28	34.70
Philippines	PHP	9.69	14.66	25.11	29.49
Singapore	SGD	2.67	2.23	2.66	2.49
United States	USD	1.28	1.05	1.22	1.31

1980-1989年の対SDR相場 (SDR建て)		1980	1983	1986	1989
Japan	JPY	0.0039	0.0041	0.0051	0.0053
Korea	KRW	0.0012	0.0012	0.0009	0.0011
China	CNY	0.5124	0.4822	0.2196	0.1611
Indonesia	IDR	0.0013	0.0010	0.0005	0.0004
Malaysia	MYR	0.3528	0.4085	0.3141	0.2815
Thailand	THB	0.0380	0.0415	0.0313	0.0296
Hong Kong	HKD	0.1528	0.1228	0.1049	0.0975
Taiwan	TWD	0.0218	0.0238	0.0216	0.0288
Philippines	PHP	0.1032	0.0682	0.0398	0.0339
Singapore	SGD	0.3745	0.4491	0.3759	0.4017
United States	USD	0.7841	0.9552	0.8175	0.7609

1 A C Uの年次別 評価 (SDR建て)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建て)	1980	1983	1986	1989
Japan	73.46	0.2837	0.3022	0.3775	0.3897
Korea	51.64	0.0614	0.0620	0.0490	0.0578
China	0.16	0.0832	0.0783	0.0356	0.0262
Indonesia	45.19	0.0565	0.0434	0.0225	0.0191
Malaysia	0.08	0.0269	0.0312	0.0240	0.0215
Thailand	0.46	0.0176	0.0192	0.0145	0.0137
Hong Kong	0.50	0.0765	0.0615	0.0525	0.0488
Taiwan	2.63	0.0572	0.0626	0.0567	0.0757
Philippines	0.17	0.0175	0.0116	0.0067	0.0057
Singapore	0.11	0.0408	0.0489	0.0409	0.0437
United States	0.49	0.3815	0.4647	0.3978	0.3702
		1.1027	1.1855	1.0778	1.0721

1980-1989年の輸出高 (US\$建て/単位: 百万)	1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	130,441.00	146,965.00	210,757.00	273,932.00	189,498.10
Korea	17,512.00	24,446.00	34,715.00	62,377.00	34,967.50
China	18,099.30	22,226.00	30,942.00	52,538.00	30,857.50
Indonesia	21,909.00	21,145.90	14,805.00	22,159.50	20,434.10
Malaysia	12,944.70	14,104.20	13,689.60	25,047.30	16,042.40
Thailand	6,505.41	6,368.32	8,875.85	20,078.30	9,801.60
Hong Kong	19,751.70	21,958.80	35,439.20	73,140.00	36,327.10
Taiwan	19,786.30	25,086.00	39,753.90	66,194.50	37,085.50
Philippines	5,741.15	4,889.94	4,805.71	7,766.68	5,641.00
Singapore	19,375.30	21,832.60	22,495.00	44,661.00	26,499.30
United States	225,566.00	205,639.00	227,158.00	363,812.00	249,667.20
合計					656,821.30

(出所) IMF-IFS(CD-ROM), 台湾についてはADB: Key Indicator2003.

Appendix 2 : 輸出額ウエイトによるACUバスケット (1990-2002年)

輸出額ウエイトによるACUバスケット (1990-2002年)	1990-2002年の輸出額によるウエイト	各国通貨の組入れ額 (ウエイト×1SDR=US\$1.42)、USD建	1990-2002年における各国通貨の対米ドル平均為替相場 (各国通貨建)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建)
Japan JPY	21.11%	0.2998	118.68	35.58
Korea KRW	6.41%	0.0910	970.63	88.38
China CNY	8.86%	0.1258	7.41	0.93
India INR	1.68%	0.0239	35.17	0.84
Indonesia IDR	2.44%	0.0347	4879.52	169.36
Malaysia MYR	3.65%	0.0518	3.09	0.16
Thailand THB	2.70%	0.0384	31.94	1.23
Hong Kong HKD	8.59%	0.1220	7.76	0.95
Taiwan TWD	5.74%	0.0816	27.89	2.28
Philippines PHP	1.20%	0.0170	33.77	0.58
Singapore SGD	5.50%	0.0781	1.64	0.13
United States USD	32.10%	0.4558	1.00	0.46

1

1980年の米ドルの対SDR相場：
1SDR=1.42US\$

1990-2002年の対米ドル相場	1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan JPY	144.79	111.20	108.78	113.91	125.39	118.68
Korea KRW	707.76	802.67	804.45	1,188.82	1,251.09	970.63
China CNY	4.78	5.76	8.31	8.28	8.28	7.41
India INR	17.50	30.49	35.43	43.06	48.61	35.17
Indonesia IDR	1,842.81	2,087.10	2,342.30	7,855.15	9,311.19	4,879.52
Malaysia MYR	2.70	2.57	2.52	3.80	3.80	3.09
Thailand THB	25.59	25.32	25.34	37.81	42.96	31.94
Hong Kong HKD	7.79	7.74	7.73	7.76	7.80	7.76
Taiwan TWD	26.89	26.63	27.49	31.40	37.75	29.04
Philippines PHP	24.31	27.12	26.22	39.09	51.60	33.77
Singapore SGD	1.81	1.62	1.41	1.69	1.79	1.64
United States USD	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1990-2002年の対SDR相場 (各国通貨建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan JPY	191.21	153.63	166.80	140.27	163.01
Korea KRW	1,019.19	1,109.97	1,213.93	1,561.92	1,612.66
China CNY	7.43	7.97	11.93	11.36	11.25
India INR	25.71	43.10	51.67	59.69	65.30
Indonesia IDR	2,704.48	2,898.21	3,426.66	9,724.23	12,154.10
Malaysia MYR	3.84	3.71	3.64	5.22	5.17
Thailand THB	35.98	35.08	36.83	51.43	58.67
Hong Kong HKD	11.10	10.61	11.12	10.67	10.60
Taiwan TWD	38.26	36.24	39.48	44.29	47.01
Philippines PHP	39.83	38.05	37.80	55.33	72.19
Singapore SGD	2.48	2.21	2.01	2.29	2.36
United States USD	1.42	1.37	1.44	1.37	1.36

1990-2002年の対SDR相場 (SDR建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan	0.0052	0.0065	0.0060	0.0071	0.0061
Korea	0.0010	0.0009	0.0008	0.0006	0.0006
China	0.1346	0.1255	0.0838	0.0880	0.0889
India	0.0389	0.0232	0.0194	0.0168	0.0153
Indonesia	0.0004	0.0003	0.0003	0.0001	0.0001
Malaysia	0.2602	0.2695	0.2750	0.1917	0.1936
Thailand	0.0278	0.0285	0.0272	0.0194	0.0170
Hong Kong	0.0901	0.0942	0.0899	0.0938	0.0943
Taiwan	0.0261	0.0276	0.0253	0.0226	0.0213
Philippines	0.0251	0.0263	0.0265	0.0181	0.0139
Singapore	0.4029	0.4528	0.4968	0.4373	0.4236
United States	0.7029	0.7280	0.6954	0.7286	0.7356

1 A C Uの年 次別評価 (SDR建て)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan	35.58	0.1861	0.2316	0.2133	0.2536	0.2183
Korea	88.38	0.0867	0.0796	0.0728	0.0566	0.0548
China	0.93	0.1255	0.1171	0.0782	0.0821	0.0829
India	0.84	0.0327	0.0195	0.0163	0.0141	0.0129
Indonesia	169.36	0.0626	0.0584	0.0494	0.0174	0.0139
Malaysia	0.16	0.0417	0.0432	0.0440	0.0307	0.0310
Thailand	1.23	0.0341	0.0349	0.0333	0.0238	0.0209
Hong Kong	0.95	0.0853	0.0892	0.0851	0.0888	0.0893
Taiwan	2.28	0.0595	0.0628	0.0576	0.0514	0.0484
Philippines	0.58	0.0144	0.0151	0.0152	0.0104	0.0080
Singapore	0.13	0.0515	0.0579	0.0635	0.0559	0.0542
United States	0.46	0.3204	0.3319	0.3170	0.3321	0.3353
		1.1005	1.1412	1.0458	1.0169	0.9698

1990-2002年の輸出高 (US\$建て/単位：百万)	1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan	287,581.00	362,244.00	410,901.00	419,367.00	416,726.00	391,018.46
Korea	65,016.00	82,235.90	129,715.00	143,685.00	162,470.00	118,759.82
China	62,091.00	91,744.00	151,048.00	194,931.00	325,591.00	164,142.00
India	17,969.10	21,571.60	33,105.10	35,666.70	49,250.30	31,134.95
Indonesia	25,675.20	36,823.00	49,814.00	48,665.50	58,119.80	45,272.29
Malaysia	29,452.30	47,130.90	78,327.40	84,621.10	93,265.00	67,608.36
Thailand	23,068.30	36,969.30	55,720.70	58,440.30	68,108.10	50,058.62
CHong Kong	82,159.90	135,244.00	180,750.00	173,885.00	200,092.00	159,166.07
Taiwan	67,079.40	84,641.00	115,730.00	121,496.00	130,457.00	106,405.73
Philippines	8,116.80	11,129.00	20,407.60	36,576.30	36,501.90	22,217.89
Singapore	52,729.70	74,011.70	125,014.00	114,680.00	125,177.00	101,813.72
United States	393,592.00	464,773.00	625,073.00	702,098.00	693,860.00	594,570.85
						1,852,168.77

(出所) IMF-IFS(CD-ROM), 台湾についてはADB: Key Indicator2003.

Appendix3 : GDPウエイトによるACUバスケット (1980-1989年)

GDPウエイトによるACUバスケット (1980-1989年)		1980-1989 年のGDPによる ウエイト	各国通貨の組入れ 額 (ウエイト× 1SDR=US\$1.28) 、USD建	1980-1989 年における各 国通貨の対米 ドル平均為替 相場 (各国通 貨建)	各国通貨の組 入れ額 (自国 通貨建)
Japan	JPY	26.73%	0.3422	198.92	68.07
Korea	KRW	1.69%	0.0217	757.82	16.42
China	CNY	4.91%	0.0628	2.70	0.17
Indonesia	IDR	1.33%	0.0170	1134.81	19.27
Malaysia	MYR	0.46%	0.0059	2.44	0.01
Thailand	THB	0.69%	0.0088	24.21	0.21
Hong Kong	HKD	0.61%	0.0078	7.07	0.06
Taiwan	TWD	1.15%	0.0148	35.61	0.53
Philippines	PHP	0.52%	0.0067	15.42	0.10
Singapore	SGD	0.29%	0.0037	2.11	0.01
United States	USD	61.62%	0.7887	1.00	0.79
		100%			

1980年の米ドルの対SDR相場 : 1SDR=1.28US\$

1980-1989年の対米ドル相場		1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	JPY	226.74	237.51	168.52	137.96	198.92
Korea	KRW	607.43	775.75	881.45	671.46	757.82
China	CNY	1.50	1.98	3.45	3.77	2.70
Indonesia	IDR	626.99	909.27	1,282.56	1,770.06	1,134.81
Malaysia	MYR	2.18	2.32	2.58	2.71	2.44
Thailand	THB	20.48	23.00	26.30	25.70	24.21
Hong Kong	HKD	4.98	7.27	7.80	7.80	7.07
Taiwan	TWD	36.02	40.07	37.84	27.66	36.34
Philippines	PHP	7.51	11.11	20.39	21.74	15.42
Singapore	SGD	2.14	2.11	2.18	1.95	2.11
United States	USD	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1980-1989年の対SDR相場 (各国通貨建て)		1980	1983	1986	1989
Japan	JPY	258.9080	243.1020	194.6100	188.5160
Korea	KRW	841.6430	832.8490	1053.6600	893.1030
China	CNY	1.9518	2.0739	4.5528	6.2056
Indonesia	IDR	799.3630	1040.6700	2007.2500	2361.5500
Malaysia	MYR	2.8345	2.4481	3.1840	3.5526
Thailand	THB	26.3117	24.0798	31.9620	33.7608
Hong Kong	HKD	6.5429	8.1453	9.5348	10.2596
Taiwan	TWD	45.9339	41.9461	46.2831	34.7030
Philippines	PHP	9.6931	14.6594	25.1121	29.4898
Singapore	SGD	2.6701	2.2269	2.6604	2.4895
United States	USD	1.2754	1.0470	1.2232	1.3142

1980-1989年の対SDR相場 (SDR建て)	1980	1983	1986	1989
Japan	0.0039	0.0041	0.0051	0.0053
Korea	0.0012	0.0012	0.0009	0.0011
China	0.5124	0.4822	0.2196	0.1611
Indonesia	0.0013	0.0010	0.0005	0.0004
Malaysia	0.3528	0.4085	0.3141	0.2815
Thailand	0.0380	0.0415	0.0313	0.0296
Hong Kong	0.1528	0.1228	0.1049	0.0975
Taiwan	0.0218	0.0238	0.0216	0.0288
Philippines	0.1032	0.0682	0.0398	0.0339
Singapore	0.3745	0.4491	0.3759	0.4017
United States	0.7841	0.9552	0.8175	0.7609

1 A C Uの年次 別評価 (SDR建て)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建て)	1980	1983	1986	1989
Japan	68.07	0.2629	0.2800	0.3498	0.3611
Korea	16.42	0.0195	0.0197	0.0156	0.0184
China	0.17	0.0869	0.0818	0.0373	0.0273
Indonesia	19.27	0.0241	0.0185	0.0096	0.0082
Malaysia	0.01	0.0051	0.0059	0.0045	0.0041
Thailand	0.21	0.0081	0.0088	0.0066	0.0063
Hong Kong	0.06	0.0085	0.0068	0.0058	0.0054
Taiwan	0.53	0.0115	0.0125	0.0114	0.0152
Philippines	0.10	0.0106	0.0070	0.0041	0.0035
Singapore	0.01	0.0029	0.0035	0.0029	0.0031
United States	0.79	0.6184	0.7533	0.6448	0.6001
		1.0584	1.1979	1.0923	1.0526

1980-1989年の各国GDP (US\$建て/単位:百万)	1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	1,072.74	1,202.38	2,023.19	2,968.90	1,816.80
Korea	62.21	82.32	107.62	220.71	118.21
China	303.74	307.56	293.47	437.33	335.52
Indonesia	72.48	85.37	86.31	101.47	86.41
Malaysia	24.49	30.13	27.73	38.84	30.30
Thailand	32.35	40.04	43.10	72.25	46.94
Hong Kong	28.58	29.38	40.24	67.58	41.44
Taiwan	41.40	52.41	75.46	149.16	79.61
Philippines	32.45	33.21	29.87	42.58	34.53
Singapore	11.72	17.38	18.03	29.84	19.24
United States	2,789.52	3,536.67	4,462.82	5,484.35	4,068.34
					6,677.35

(出所) IMF-IFS(CD-ROM), 台湾についてはADB: Key Indicator2003.

注) GDP額については、各国通貨建てデータを当該年の平均為替レートで除して求めた値である。

Appendix4 : GDPウエイトによるA C Uバスケット (1990-2002年)

		1990-2002年 のGDPによるウエ イト	各国通貨の組入 れ額 (ウエイト × 1SDR=US\$1.4 2)、USD建	1990-2002年 における各国通 貨の対米ドル平 均為替相場 (各 国通貨建)	各国通貨の組入 れ額 (自国通貨 建)
Japan	JPY	28.75%	0.4082	118.68	48.45
Korea	KRW	2.89%	0.0411	970.63	39.86
China	CNY	5.38%	0.0764	7.41	0.57
India	INR	2.62%	0.0372	35.17	1.31
Indonesia	IDR	1.08%	0.0153	4,879.52	74.67
Malaysia	MYR	0.53%	0.0075	3.09	0.02
Thailand	THB	0.87%	0.0124	31.94	0.39
Hong Kong	HKD	0.94%	0.0134	7.76	0.10
Taiwan	TWD	1.72%	0.0244	29.04	0.71
Philippines	PHP	0.45%	0.0064	33.77	0.22
Singapore	SGD	0.50%	0.0071	1.64	0.01
United States	USD	54.27%	0.7707	1.00	0.77
		100%			

1990年の米ドルの対SDR相場：1SDR=1.42US\$

1990-2002の対米ドル相場		1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan	JPY	144.79	111.20	108.78	113.91	125.39	118.68
Korea	KRW	707.76	802.67	804.45	1,188.82	1,251.09	970.63
China	CNY	4.78	5.76	8.31	8.28	8.28	7.41
India	INR	17.50	30.49	35.43	43.06	48.61	35.17
Indonesia	IDR	1,842.81	2,087.10	2,342.30	7,855.15	9,311.19	4,879.52
Malaysia	MYR	2.70	2.57	2.52	3.80	3.80	3.09
Thailand	THB	25.59	25.32	25.34	37.81	42.96	31.94
Hong Kong	HKD	7.79	7.74	7.73	7.76	7.80	7.76
Taiwan	TWD	26.89	26.63	27.49	31.40	37.75	29.04
Philippines	PHP	24.31	27.12	26.22	39.09	51.60	33.77
Singapore	SGD	1.81	1.62	1.41	1.69	1.79	1.64
United States	USD	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1990-2002年の対SDR 相場 (各国通貨建て)		1990	1993	1996	1999	2002
Japan	JPY	191.21	153.63	166.80	140.27	163.01
Korea	KRW	1,019.19	1,109.97	1,213.93	1,561.92	1,612.66
China	CNY	7.43	7.97	11.93	11.36	11.25
India	INR	25.71	43.10	51.67	59.69	65.30
Indonesia	IDR	2,704.48	2,898.21	3,426.66	9,724.23	12,154.10
Malaysia	MYR	3.84	3.71	3.64	5.22	5.17
Thailand	THB	35.98	35.08	36.83	51.43	58.67
Hong Kong	HKD	11.10	10.61	11.12	10.67	10.60
Taiwan	TWD	38.26	36.24	39.48	44.29	47.01
Philippines	PHP	39.83	38.05	37.80	55.33	72.19
Singapore	SGD	2.48	2.21	2.01	2.29	2.36
United States	USD	1.42	1.37	1.44	1.37	1.36

1990-2002年の対SDR 相場 (SDR建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan	0.0052	0.0065	0.0060	0.0071	0.0061
Korea	0.0010	0.0009	0.0008	0.0006	0.0006
China	0.1346	0.1255	0.0838	0.0880	0.0889
India	0.0389	0.0232	0.0194	0.0168	0.0153
Indonesia	0.0004	0.0003	0.0003	0.0001	0.0001
Malaysia	0.2602	0.2695	0.2750	0.1917	0.1936
Thailand	0.0278	0.0285	0.0272	0.0194	0.0170
Hong Kong	0.0901	0.0942	0.0899	0.0938	0.0943
Taiwan	0.0261	0.0276	0.0253	0.0226	0.0213
Philippines	0.0251	0.0263	0.0265	0.0181	0.0139
Singapore	0.4029	0.4528	0.4968	0.4373	0.4236
United States	0.7029	0.7280	0.6954	0.7286	0.7356

1 A C Uの年次別評価 (SDR建て)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan	48.45	0.2534	0.3154	0.2905	0.3454	0.2972
Korea	39.86	0.0391	0.0359	0.0328	0.0255	0.0247
China	0.57	0.0762	0.0711	0.0475	0.0498	0.0503
India	1.31	0.0508	0.0303	0.0253	0.0219	0.0200
Indonesia	74.67	0.0276	0.0258	0.0218	0.0077	0.0061
Malaysia	0.02	0.0060	0.0062	0.0064	0.0044	0.0045
Thailand	0.39	0.0110	0.0112	0.0107	0.0077	0.0067
Hong Kong	0.10	0.0094	0.0098	0.0093	0.0097	0.0098
Taiwan	0.71	0.0185	0.0195	0.0179	0.0160	0.0150
Philippines	0.22	0.0054	0.0057	0.0057	0.0039	0.0030
Singapore	0.01	0.0047	0.0053	0.0058	0.0051	0.0050
United States	0.77	0.5417	0.5611	0.5360	0.5615	0.5669
		1.0439	1.0973	1.0097	1.0587	1.0093

1990-2002年のGDP額 (US\$建て/単位:百万)	1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan	3,039.71	4,354.70	4,688.26	4,452.97	3,973.87	4,230.89
Korea	252.62	345.72	557.64	445.40	546.93	425.63
China,P.R.: Mainland	383.00	598.77	821.85	998.68	1,270.66	792.07
India	324.89	281.77	386.14	449.85	508.03	385.05
Indonesia	114.43	158.01	227.37	140.00	172.97	158.59
Malaysia	44.02	66.90	100.85	79.15	94.91	77.53
Thailand	85.34	125.01	181.95	122.63	126.47	128.00
China,P.R.:Hong Kong	75.44	118.00	156.57	160.64	159.94	138.62
Taiwan Prov.of China	160.15	222.63	272.33	287.92	281.54	252.50
Philippines	44.31	54.37	82.85	76.16	76.73	66.59
Singapore	36.90	58.35	92.22	82.37	88.27	73.97
United States	5,803.07	6,657.40	7,816.82	9,268.42	10,487.00	7,987.11
						14,716.55

(出所) IMF-IFS(CD-ROM), 台湾についてはADB: Key Indicator2003.

注) GDP額については、各国通貨建てデータを当該年の平均為替レートで除して求めた値である。

Appendix5 : 輸出額およびGDPウエイトによるACUバスケット (1980-1989年)

		1980-1989 年のGDPによ るウエイト	1980-1989 年の輸出額に よるウエイト	1980-1989 年の輸出額およ びGDP額による ウエイト	各国通貨の組入れ 額 (ウエイト× 1SDR=US\$1.28)、米ドル建て	1980-1989年にお ける各国通貨の対米 ドル平均為替相場 (各国通貨建て)	各国通貨の組 入れ額 (自国 通貨建て)
Japan	JPY	26.73%	28.85%	27.79%	0.3557	198.92	70.76
Korea	KRW	1.69%	5.32%	3.51%	0.0449	757.82	34.03
China	CNY	4.91%	4.70%	4.80%	0.0615	2.70	0.17
Indonesia	IDR	1.33%	3.11%	2.22%	0.0284	1134.81	32.23
Malaysia	MYR	0.46%	2.44%	1.45%	0.0186	2.44	0.05
Thailand	THB	0.69%	1.49%	1.09%	0.0139	24.21	0.34
Hong Kong	HKD	0.61%	5.53%	3.07%	0.0393	7.07	0.28
Taiwan	TWD	1.15%	5.65%	3.40%	0.0435	35.61	1.55
Philippines	PHP	0.52%	0.86%	0.69%	0.0088	15.42	0.14
Singapore	SGD	0.29%	4.03%	2.16%	0.0276	2.11	0.06
United States	USD	61.62%	38.01%	49.81%	0.6376	1.00	0.64
		100%	100%	100%			

1980年の米ドルの対SDR相場：1SDR=1.28US\$

1980-1989年の対米ドル相場		1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	JPY	226.74	237.51	168.52	137.96	198.92
Korea	KRW	607.43	775.75	881.45	671.46	757.82
China	CNY	1.50	1.98	3.45	3.77	2.70
Indonesia	IDR	626.99	909.27	1,282.56	1,770.06	1,134.81
Malaysia	MYR	2.18	2.32	2.58	2.71	2.44
Thailand	THB	20.48	23.00	26.30	25.70	24.21
Hong Kong	HKD	4.98	7.27	7.80	7.80	7.07
Taiwan	TWD	36.02	40.07	37.84	27.66	36.34
Philippines	PHP	7.51	11.11	20.39	21.74	15.42
Singapore	SGD	2.14	2.11	2.18	1.95	2.11
United States	USD	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1980-1989年の対SDR相場 (各国通貨建て)		1980	1983	1986	1989
Japan	JPY	258.91	243.10	194.61	188.52
Korea	KRW	841.64	832.85	1,053.66	893.10
China	CNY	1.95	2.07	4.55	6.21
Indonesia	IDR	799.36	1,040.67	2,007.25	2,361.55
Malaysia	MYR	2.83	2.45	3.18	3.55
Thailand	THB	26.31	24.08	31.96	33.76
Hong Kong	HKD	6.54	8.15	9.53	10.26
Taiwan	TWD	45.93	41.95	46.28	34.70
Philippines	PHP	9.69	14.66	25.11	29.49
Singapore	SGD	2.67	2.23	2.66	2.49
United States	USD	1.28	1.05	1.22	1.31

1980-1989年の対SDR相場 (SDR建て)		1980	1983	1986	1989
Japan		0.0039	0.0041	0.0051	0.0053
Korea		0.0012	0.0012	0.0009	0.0011
China		0.5124	0.4822	0.2196	0.1611
Indonesia		0.0013	0.0010	0.0005	0.0004
Malaysia		0.3528	0.4085	0.3141	0.2815
Thailand		0.0380	0.0415	0.0313	0.0296
Hong Kong		0.1528	0.1228	0.1049	0.0975
Taiwan		0.0218	0.0238	0.0216	0.0288
Philippines		0.1032	0.0682	0.0398	0.0339
Singapore		0.3745	0.4491	0.3759	0.4017
United States		0.7841	0.9552	0.8175	0.7609

1 A C Uの年次別 評価 (SDR建て)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建て)	1980	1983	1986	1989
Japan	70.76	0.2733	0.2911	0.3636	0.3754
Korea	34.03	0.0404	0.0409	0.0323	0.0381
China	0.17	0.0850	0.0800	0.0365	0.0267
Indonesia	32.23	0.0403	0.0310	0.0161	0.0136
Malaysia	0.05	0.0160	0.0185	0.0142	0.0128
Thailand	0.34	0.0128	0.0140	0.0106	0.0100
Hong Kong	0.28	0.0425	0.0341	0.0292	0.0271
Taiwan	1.55	0.0337	0.0369	0.0335	0.0447
Philippines	0.14	0.0140	0.0093	0.0054	0.0046
Singapore	0.06	0.0218	0.0262	0.0219	0.0234
United States	0.64	0.4999	0.6090	0.5213	0.4852
		1.0800	1.1910	1.0845	1.0616

1980-1989年の輸出高 (US\$建て/単位:百万)	1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	1,072.74	1,202.38	2,023.19	2,968.90	1,816.80
Korea	62.21	82.32	107.62	220.71	118.21
China	303.74	307.56	293.47	437.33	335.52
Indonesia	72.48	85.37	86.31	101.47	86.41
Malaysia	24.49	30.13	27.73	38.84	30.30
Thailand	32.35	40.04	43.10	72.25	46.94
Hong Kong	28.58	29.38	40.24	67.58	41.44
Taiwan	41.40	52.41	75.46	149.16	79.61
Philippines	32.45	33.21	29.87	42.58	34.53
Singapore	11.72	17.38	18.03	29.84	19.24
United States	2,789.52	3,536.67	4,462.82	5,484.35	4,068.34
					6,677.35

1980-1989年の輸出高 (US\$建て/単位:百万)	1980	1983	1986	1989	1980-1989年平均
Japan	130,441.00	146,965.00	210,757.00	273,932.00	189,498.10
Korea	17,512.00	24,446.00	34,715.00	62,377.00	34,967.50
China	18,099.30	22,226.00	30,942.00	52,538.00	30,857.53
Indonesia	21,909.00	21,145.90	14,805.00	22,159.50	20,434.08
Malaysia	12,944.70	14,104.20	13,689.60	25,047.30	16,042.42
Thailand	6,505.41	6,368.32	8,875.85	20,078.30	9,801.62
Hong Kong	19,751.70	21,958.80	35,439.20	73,140.00	36,327.11
Taiwan	19,786.30	25,086.00	39,753.90	66,194.50	37,085.52
Philippines	5,741.15	4,889.94	4,805.71	7,766.68	5,640.99
Singapore	19,375.30	21,832.60	22,495.00	44,661.00	26,499.32
United States	225,566.00	205,639.00	227,158.00	363,812.00	249,667.20
					656,821.39

(出所) IMF-IFS(CD-ROM), 台湾についてはADB: Key Indicator2003.

注) GDP額については, 各国通貨建てデータを当該年の平均為替レートで除して求めた値である。

Appendix 6 : 輸出額およびGDPウエイトによるACUバスケット (1990-2002年)

		1990-2002年 のGDPによる ウエイト	1990-2002 の輸出額に よるウエイ ト	1990-2002年 の輸出額およ びGDP額によ るウエイト (50:50)	各国通貨の組入れ 額 (ウエイト× ISDR=US\$1.42)、 米ドル建て	1990-2002年 における各国 通貨の対米ド ル平均為替相 場 (各国通貨 建て)	各国通貨の組入れ 額 (百国通貨建)
Japan	JPY	28.75%	21.11%	24.93%	0.3540	118.6830	42.02
Korea	KRW	2.89%	6.41%	4.65%	0.0661	970.6308	64.12
China	CNY	5.38%	8.86%	7.12%	0.1011	7.4113	0.75
India	INR	2.62%	1.68%	2.15%	0.0305	35.1737	1.07
Indonesia	IDR	1.08%	2.44%	1.76%	0.0250	4879.5154	122.02
Malaysia	MYR	0.53%	3.65%	2.09%	0.0297	3.0891	0.09
Thailand	THB	0.87%	2.70%	1.79%	0.0254	31.9439	0.81
Hong Kong	HKD	0.94%	8.59%	4.77%	0.0677	7.7592	0.53
Taiwan	TWD	1.72%	5.74%	3.73%	0.0530	29.0351	1.54
Philippines	PHP	0.45%	1.20%	0.83%	0.0117	33.7700	0.40
Singapore	SGD	0.50%	5.50%	3.00%	0.0426	1.6384	0.07
United States	USD	54.27%	32.10%	43.19%	0.6133	1.0000	0.61
		100%	100%	100%			

1990年の米ドルの対SDR相場: TSDR=1.42US\$

1990-2002年の対米ドル相場		1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan	JPY	144.79	111.20	108.78	113.91	125.39	118.68
Korea	KRW	707.76	802.67	804.45	1188.82	1251.09	970.63
China	CNY	4.78	5.76	8.31	8.28	8.28	7.41
India	INR	17.50	30.49	35.43	43.06	48.61	35.17
Indonesia	IDR	1842.81	2087.10	2342.30	7855.15	9311.19	4879.52
Malaysia	MYR	2.70	2.57	2.52	3.80	3.80	3.09
Thailand	THB	25.59	25.32	25.34	37.81	42.96	31.94
Hong Kong	HKD	7.79	7.74	7.73	7.76	7.80	7.76
Taiwan	TWD	3.28	26.63	27.49	31.40	37.75	27.89
Philippines	PHP	24.31	27.12	26.22	39.09	51.60	33.77
Singapore	SGD	1.81	1.62	1.41	1.69	1.79	1.64
United States	USD	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1990-2002年の対SDR相場 (各国通貨建て)		1990	1993	1996	1999	2002
Japan	JPY	191.21	153.63	166.80	140.27	163.01
Korea	KRW	1,019.19	1,109.97	1,213.93	1,561.92	1,612.66
China	CNY	7.43	7.97	11.93	11.36	11.25
India	INR	25.71	43.10	51.67	59.69	65.30
Indonesia	IDR	2,704.48	2,898.21	3,426.66	9,724.23	12,154.10
Malaysia	MYR	3.84	3.71	3.64	5.22	5.17
Thailand	THB	35.98	35.08	36.83	51.43	58.67
Hong Kong	HKD	11.10	10.61	11.12	10.67	10.60
Taiwan	TWD	38.26	36.24	39.48	44.29	47.01
Philippines	PHP	39.83	38.05	37.80	55.33	72.19
Singapore	SGD	2.48	2.21	2.01	2.29	2.36
United States	USD	1.42	1.37	1.44	1.37	1.36

1990-2002年の対SDR相場 (SDR建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan	0.0052	0.0065	0.0060	0.0071	0.0061
Korea	0.0010	0.0009	0.0008	0.0006	0.0006
China	0.1346	0.1255	0.0838	0.0880	0.0889
India	0.0389	0.0232	0.0194	0.0168	0.0153
Indonesia	0.0004	0.0003	0.0003	0.0001	0.0001
Malaysia	0.2602	0.2695	0.2750	0.1917	0.1936
Thailand	0.0278	0.0285	0.0272	0.0194	0.0170
Hong Kong	0.0901	0.0942	0.0899	0.0938	0.0943
Taiwan	0.0261	0.0276	0.0253	0.0226	0.0213
Philippines	0.0251	0.0263	0.0265	0.0181	0.0139
Singapore	0.4029	0.4528	0.4968	0.4373	0.4236
United States	0.7029	0.7280	0.6954	0.7286	0.7356

1 A C Uの年次別 評価 (SDR建て)	各国通貨の組入れ額 (自国通貨建て)	1990	1993	1996	1999	2002
Japan	42.02	0.2197	0.2735	0.2519	0.2995	0.2578
Korea	64.12	0.0629	0.0578	0.0528	0.0411	0.0398
China	0.75	0.1009	0.0941	0.0628	0.0660	0.0666
India	1.07	0.0417	0.0249	0.0208	0.0180	0.0164
Indonesia	122.02	0.0451	0.0421	0.0356	0.0125	0.0100
Malaysia	0.09	0.0238	0.0247	0.0252	0.0176	0.0177
Thailand	0.81	0.0225	0.0231	0.0220	0.0158	0.0138
Hong Kong	0.53	0.0473	0.0495	0.0472	0.0493	0.0496
Taiwan	1.54	0.0402	0.0424	0.0390	0.0347	0.0327
Philippines	0.40	0.0099	0.0104	0.0105	0.0072	0.0055
Singapore	0.07	0.0281	0.0316	0.0347	0.0305	0.0296
United States	0.61	0.4311	0.4465	0.4265	0.4468	0.4511
		1.0734	1.1205	1.0289	1.0389	0.9905

1990-2002年のGDP額 (US\$建て/単位: 百万)	1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan	287,581.00	362,244.00	410,901.00	419,367.00	416,726.00	391,018.46
Korea	65,016.00	82,235.90	129,715.00	143,685.00	162,470.00	118,759.82
China	62,091.00	91,744.00	151,048.00	194,931.00	325,591.00	164,142.00
India	17,969.10	21,571.60	33,105.10	35,666.70	49,250.30	31,134.95
Indonesia	25,675.20	36,823.00	49,814.00	48,665.50	58,119.80	45,272.29
Malaysia	29,452.30	47,130.90	78,327.40	84,621.10	93,265.00	67,608.36
Thailand	23,068.30	36,969.30	55,720.70	58,440.30	68,108.10	50,058.62
CHong Kong	82,159.90	135,244.00	180,750.00	173,885.00	200,092.00	159,166.07
Taiwan	67,079.40	84,641.00	115,730.00	121,496.00	130,457.00	106,405.73
Philippines	8,116.80	11,129.00	20,407.60	36,576.30	36,501.90	22,217.89
Singapore	52,729.70	74,011.70	125,014.00	114,680.00	125,177.00	101,813.72
United States	393,592.00	464,773.00	625,073.00	702,098.00	693,860.00	594,570.85
						1,852,168.77

1990-2002年のGDP額 (US\$建て/単位: 百万)	1990	1993	1996	1999	2002	1990-2002年平均
Japan	3,039.71	4,354.70	4,688.26	4,452.97	3,973.87	4,230.89
Korea	252.62	345.72	557.64	445.40	546.93	425.63
China, P. R. : Mainland	383.00	598.77	821.85	998.68	1,270.66	792.07
India	324.89	281.77	386.14	449.85	508.03	385.05
Indonesia	114.43	158.01	227.37	140.00	172.97	158.59
Malaysia	44.02	66.90	100.85	79.15	94.91	77.53
Thailand	85.34	125.01	181.95	122.63	126.47	128.00
China, P. R. : Hong Kong	75.44	118.00	156.57	160.64	159.94	138.62
Taiwan Prov. of China	160.15	222.63	272.33	287.92	281.54	252.50
Philippines	44.31	54.37	82.85	76.16	76.73	66.59
Singapore	36.90	58.35	92.22	82.37	88.27	73.97
United States	5,803.07	6,657.40	7,816.82	9,268.42	10,487.00	7,987.11
						14,716.55

(出所) IMF-IFS (CD-ROM), 台湾についてはADB: Key Indicator 2003.

注) GDP額については、各国通貨建てデータを当該年の平均為替レートで除して求めた値である。